

岩手県立杜陵学園

水害・土砂災害対策計画

平成29年2月

1 本計画について

平成 28 年 8 月 30 日に本県大船渡市付近に上陸した台風 10 号に伴う暴風及び豪雨による災害の発生により、岩泉町の認知症高齢者グループホームにおいて多くの入所者が亡くなるなど、各地で甚大な被害が発生した。

このことを受け、当学園は、盛岡市の洪水、崖崩れ・土石流及び地滑り、大規模な火災の指定緊急避難場所に指定されてはいるものの、仮に想定外の災害が発生したとしても入所児童や職員の安全を確実に確保するため、本計画を策定するものである。

なお、本計画は、水害と土砂災害を想定したものであり、火災と地震災害に関する対策は「岩手県立杜陵学園消防計画」に定めるものであり、また、大規模災害が発生した場合の業務の継続等については「岩手県立杜陵学園災害時業務継続計画」に定めるものである。

2 水害と土砂災害に関する当学園の立地条件と考えられる被害

当学園の側には北上川が流れているが、当学園の敷地は北上川から高い位置にあり、対岸は当学園の敷地より低くなっているため、仮に北上川が氾濫したとしても当学園の敷地内に川の水が流れ込むことは考えられず、盛岡市洪水ハザードマップでも当学園に浸水の危険はない。

また、大雨等で学園敷地内に土砂が流れ込むような危険箇所はなく、盛岡市土砂災害ハザードマップでも危険箇所とはなっていない。

しかし、想定外の災害が発生した場合、当学園への直接的な被害は北上川の氾濫により川沿いの斜面の土砂が流出し、川沿いの敷地の一部が削られることも考えられ、また、北上川に近い市道等の冠水等により、当学園が一時的に孤立する可能性も考えられる。

3 災害に関する情報の入手方法

(1) 気象庁の情報

台風や大雨などが想定される場合は、台風情報、気象警報・注意報等の状況を気象庁のホームページで確認する。

(2) 北上川ダム統合管理事務所の情報

スピーカーやサイレンによる注意喚起が行われるので、状況を確認する。

(3) いわてモバイルメール及びエリアメールの情報

配信されるメールにより、状況を確認する。

また、盛岡市が携帯電話に送信するエリアメールにより、状況を確認する。

(4) マスメディアの情報

TVやラジオにより、状況を確認する。

(5) その他

状況に応じ、上記の方法により情報を入手するが、消防署や盛岡市からの情報があつた場合も確実に内容を確認する。

4 災害時の連絡先及び通信手段

(1) 職員の連絡先及び通信手段

勤務職員以外の職員には配布済みの「非常事態発生時の招集連絡網」により、電話連絡を行う。また、連絡した職員が携帯電話に応答しない場合は、ショートメールにより連絡内容を送信する。

なお、携帯電話やショートメールが不通の時は、NTTの「災害時伝言ダイヤル」を活用してメッセージを録音することで職員への連絡を確保する。

NTTの「災害時伝言ダイヤル」の利用方法

【伝言の録音方法】

- ① まずは学園の電話機の「171」をダイヤルする。
- ② ガイダンスが流れるので、「1」（録音する）を押す。
- ③ 被災地域の方の電話番号をダイヤルするようガイダンスが流れるので、電話機で「019 641 3365」を押す。
- ④ プッシュ式の電話機は「1」を押すようガイダンスが流れるので「1」を押す。
- ⑤ ガイダンスが流れるのでピッという音のあとに30秒以内で話し、話し終わったら「9」を押す。
- ⑥ 訂正が必要な時は「8」を押すよう、また、再生が不要な時は「9」を押すようガイダンスが流れるので、念のため伝言の内容を確認し、訂正が必要な場合は「8」を押して伝言を修正し、終了する。

【伝言の再生方法】

- ① まずは、自分の携帯電話や固定電話から「171」をダイヤルする。（契約する携帯電話会社によっては利用できない場合があるので、その時は公衆電話から）
- ② ガイダンスが流れるので、「2」（再生する）を押す。
- ③ 被災地方の電話番号をダイヤルするようガイダンスが流れるので、「019 641 3365」を押す。
- ④ プッシュ式の電話機は「1」を押すよう、また、伝言を繰り返す時は「8」を、次の伝言に移る時は「9」を押すようガイダンスが流れるので、「1」を押し、伝言を聞く（伝言は1件に限らないので、全ての伝言を確認すること。）。
- ⑤ 最後の伝言が終わると伝言は以上であること、伝言を追加して録音する時は「3」を押すようガイダンスが流れるので、伝言を追加する場合は「3」を押し、録音すること。

(2) 関係機関、関係者の連絡先及び通信手段

被害の状況に応じて、次の関係機関等に必要な情報を連絡する。

① 災害発生時の連絡先（救助要請関係）

ア 消防署

☎ 1 1 9 （盛岡西消防署厨川出張所 **☎ 6 4 1 - 0 1 1 9**）

イ 警察署

☎ 1 1 0 （盛岡西警察署 **☎ 6 4 5 - 0 1 1 0**）

② 災害発生時の連絡先（岩手県地域防災計画・災害救助法関係）

ア 盛岡広域振興局保健福祉環境部福祉課

☎ 6 2 9 - 6 5 7 6 **Fax 6 2 9 - 6 5 7 9**

イ 盛岡市子ども未来課

☎ 6 1 3 - 8 3 5 6 **Fax 6 5 2 - 3 4 2 4**

ウ 子ども子育て支援課（主管課）

☎ 6 2 9 - 5 4 5 7 **Fax 6 2 9 - 5 4 6 4**

③ 盛岡市防災担当課の連絡先（指定緊急避難場所関係）

盛岡市総務部危機管理防災課危機防災係 **☎ 6 0 3 - 8 0 3 1**

③ 施設管理、医療機関等の連絡先

ガス、水道等施設の維持の連絡先は、配布済みの「関係機関連絡先一覧表」に記載のとおり。

④ 入所児童の家族の連絡先

児童票に記載のとおり。

電話が不通の場合は、N T Tの「災害時伝言ダイヤル」を利用し、情報を提供する。

5 避難を開始する時期、判断基準

当学園の児童及び職員の避難は、盛岡市から当地域を対象とした「避難指示（緊急）」が発令された時に、開始する。また、「避難指示（緊急）」が発令されていない場合でも、盛岡地方気象台が盛岡市を対象に1時間雨量100ミリ以上の予報を発表した場合は避難を開始する。

なお、上記以外でも勤務者が、危険を感じた場合は、避難を開始する。

6 避難場所

前述のとおり、当学園は、盛岡市の洪水、崖崩れ・土石流及び地滑り、大規模な火災の指定緊急避難場所に指定されている。他の場所に立ち退き避難することはかえって命に危険を及ぼしかねないことから、当学園内の一室に児童を避難させることを原則とする。

なお、学園敷地内に亀裂が発生する等、学園から立ち退き避難を要する事態となったときは、当学園に到着している盛岡市の緊急避難場所担当職員の指示に従い避難する。仮に盛岡市職員が到着していない場合は、職員の判断により比較的安全と考えられる東北農業研究センター内を通り、同じく避難場所である北厨川児童センター、または、北厨川小学校に避難する。

(1) 一次避難場所

- ① 児童が本館で活動している場合
会議室とする。
- ② 上記以外の場合
集会室とする。

(2) 二次及び三次避難場所

二次避難場所：北厨川児童センター

三次避難場所：北厨川小学校

7 避難の方法及び二次避難場所、三次避難場所への避難経路

避難方法は徒歩とし、避難経路は次のとおりとするが、安全が確保できない場合は、経路を変更して避難する。

(1) 二次避難場所への避難経路



(2) 三次避難場所への経路



8 災害時の体制及び指揮系統等

災害発生時の体制や指揮系統、職員の動員及び参集体制については、「岩手県立杜陵学園災害時業務継続計画」第4章の「自衛消防組織の設置、運営」に定めるとおりとする。

岩手県立杜陵学園災害時業務継続計画 第4章

第4章 自衛消防組織の設置・運営

1 自衛消防組織の設置・運営

当学園は、県の災害対策本部等の組織とはなっていないが、災害が発生、又は発生する恐れがある場合は、災害対策を迅速に行うため、直ちに園長を自衛消防隊長とする自衛消防隊を設置し、学園及び分校・分教室の組織を挙げて災害応急対策を迅速かつ的確に実施する。

(1) 自衛消防隊の動員配備体制

自衛消防隊の学園職員配備基準及び配備職員の範囲は、表4-1のとおりとする。

表4-1 配備基準の種類及び配備職員の範囲

職員配備基準	配備職員の範囲
ア 盛岡市に気象警報等が発表され、かつ、相当規模の災害が発生、又は発生するおそれ。 イ 気象特別警報等が発表。 ウ 盛岡市に大規模な火災、爆発等による相当規模の災害が発生、又は発生するおそれ。 エ 盛岡市に震度5強の地震が発生。 オ 岩手山に噴火警戒レベル4（居住地域）又は噴火警報が発表。	園長及び園長補佐、支援総括、庶務担当。
ア 盛岡市に気象警報又は気象特別警報等が発表され、かつ、相当規模の災害が発生、又は発生するおそれ。 イ 学園周辺に大規模な火災、爆発等による相当規模の災害が発生、又は発生するおそれ。 ウ 盛岡市に震度6弱の地震が発生。 エ 岩手山に噴火警戒レベル5（居住地域）又は噴火警報が発表。	主任以上の全職員。
ア 大規模な災害が発生した場合において、隊長が全職員を挙げて災害応急対策を講じる必要があると認めたとき。 イ 盛岡市に震度6強又は7の地震が発生。 ウ 原子力緊急事態宣言がなされ、緊急事態応急対策を実施すべき区域に盛岡市が含まれる場合、又は含まれることが想定。	全職員。

(2) 職員の動員・参集体制

ア 職員の連絡方法

職員の動員は、自衛消防隊長の判断により、口頭や非常連絡網により、連絡する。

イ 自主参集

職員は、夜間、休日等の勤務時間外において、職員配備基準に該当する災害の発生を知したとき、又は気象警報等が発表されたことを覚知したときは、連絡を待たずに、直ちに学園に参集する。

9 地域の関係機関や地域住民等との協力体制の構築

災害発生時には、消防署や地域住民等との連携が必要となる場合もあることから、いざという時に協力を得ることができるように日頃からの関係作りが必要である。

当学園では、総合防災訓練の際には盛岡西消防署厨川出張所及び町内会の方々の協力を得て実施しているが、今後もこの取り組みを継続し、また、当学園の活動であるクリーン作戦の実施や町内会の清掃活動への参加を継続すること等により、地域の関係機関や地域住民の当学園への理解を深め、協力体制を構築していく。

10 避難訓練の実施

いざという時に安全、確実に避難ができるようになるため、梅雨前の5月と台風シーズン前8月に避難訓練を実施する。

(1) 5月の訓練内容

① 児童と職員の訓練

児童が本館で活動している時間に実施し、一次避難場所の会議室に避難する。

② 職員のための訓練

当施設の特性から、数名の職員による徒歩での二次避難場所への避難訓練を行うが、避難経路の安全性等を確認しながら移動する。

(2) 8月の訓練内容

① 児童と職員の訓練

児童が本館で活動している時間以外に実施し、一次避難場所の集会室に避難する。

② 職員のための訓練

当施設の特性から、数名の職員による徒歩での二次避難場所及び三次避難場所への避難訓練を行うが、避難経路の安全性等を確認しながら移動する。